

学年・教科	第3学年	社会	担当者	飯田 太郎
学習目標 社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追求したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を育成することを目指す。				
指導計画		学習内容		
【歴史的分野】 第5章 開国と近代日本の歩み 4節 日清・日露戦争 第6章 二度の世界大戦と日本 1節 第一次世界大戦と日本 2節 大正デモクラシーの時代 3節 世界恐慌と日本の中国侵略 4節 第二次世界大戦と日本 第7章 現代の日本と世界 1節 戦後日本の出発 2節 冷戦と日本の発展 3節 新たな時代の日本と世界 【公民的分野】 第1章 現代社会と私たち 1節 現代社会の特色と私たち 2節 私たちの生活と文化 3節 現代社会の見方や考え方	1 学 期	【歴史的分野】 ○近代化を進める中で、なぜ日本は中国やロシアと戦争をすることになったのか。 ○第一次世界大戦はなぜ起こり、世界と日本のどのような影響を与えたのか。○なぜ日本で民主主義の風潮が高まったのか。○経済情勢が変化する中、日本はどのようにして日中戦争に突入したのか。○第二次世界大戦はなぜ起こり、世界と日本にどのような影響を与えたのか。 ○戦後の諸改革は、日本の政治や社会にどのような影響を与えたのか。○冷戦の中で、なぜ日本は経済成長をとげることができたのか。○より良い社会を創るために、これからどのようなことが必要とされるのか。		
		第2章 個人の尊重と日本国憲法 1節 人権と日本国憲法 2節 人権と共生社会 3節 これからの人権保障 第3章 現代の民主政治と社会 1節 現代の民主政治 2節 国の政治の仕組み 3節 地方自治と私たち 第4章 私たちの暮らしと経済 1節 消費生活と経済 2節 生産と労働	2 学 期	【公民的分野】 ○「グローバル化」「情報化」「少子高齢化」と影響を受けて生じる課題、それらを解決するために必要な考え方として、「持続可能な社会」と「社会参画」について。○現代社会における文化の意義と影響について。○対立と合意、効率と公正という、現代社会を捉える見方や考え方について。 ○人権思想の歴史と立憲主義、日本国憲法の制定、憲法改正、日本国憲法の三つの基本原理について。○日本国憲法の基本原理である「基本的人権の尊重」について。○「新しい人権」や国際的な人権保障について。 ○民主主義と選挙、政党政治、メディアリテラシーなどについて。○国の統治機構として、国会、内閣、裁判所について。○地方自治の意義や二元代表制、地方財政、住民参加について。 ○「家計(消費活動)」、契約や消費者の権利、消費生活を支える流通について。○「企業(生産活動)」、企業の種類や働き、株式会社の仕組みや企業の社会的責任、企業で働く労働者の権利や課題について。
3節 市場経済の仕組みと金融 4節 財政と国民の福祉 5節 これからの経済と社会 第5章 地球社会と私たち 1節 国際社会の仕組み 2節 さまざまな国際問題 3節 これからの地球社会と日本 終章 より良い社会を目指して	3 学 期			○「政府(財政活動)」、日本の財政のあらましや政府の役割、社会保障について。○公害と環境保全、「豊かな社会」について。 ○主権国家、国際連合、地域主義という国際社会の主な主体、南北・南南問題によって複雑化する国際関係について。○地球環境問題、貧困問題、難民問題など国際社会の抱える様々な問題について。○日本の役割として平和主義外交や文官両面での国際関係の構築、国際社会の役割として「文化の多様性の尊重」と国際協力に基づく国際平和の実現について。
観点別評価の観点と主な方法について ○ 知識・技能 (我が国の国土と歴史、現代の政治、経済、国際関係に関して理解しているとともに、調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめようとしている。) →テスト、ワーク、資料の活用など。 ○ 思考・判断・表現 (社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したり、思考・判断したり、それらを基に議論したりしている。) →ノート、テスト、レポート、授業中の活動(発表)など。 ○ 主体的に学習に取り組む態度 (社会的事象について、国家及び社会の担い手として、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとしている。) →ノート、ワーク、授業中の活動(発表)など。				
学習のアドバイス ～テスト前の勉強の取り組み方～ ① 教科書は最低2回読む……1回目は、ワークやノートなどを見て重要語句にマーカーを引きながら！ ② ワークに取り組む＆やり込む……分からなかった所を中心に教科書(2回目)やノートで確認しよう！ ③ 書くことを大切に勉強する……書くことで理解を深めよう。人名や用語は漢字で書こう！				
使用教材 教科書、地図帳、資料集 (歴史・公民)、ワーク (歴史・公民)				